

## ESWL (体外衝撃波結石破碎術) 後に 発症した腎被膜下血腫の2例

やま ぐち ひろ し すみ ふみ のぶ  
山 口 広 司 角 文 宣

キーワード：ESWL, 腎被膜下血腫

### 要 旨

上部尿路結石に対する ESWL は第一選択となり得る安全な治療法であるが、腎被膜下血腫を起こす危険性もある。当科における2005年8月から2013年6月までの腎、腎盂結石に対する ESWL 症例130例中、2例(1.5%)で腎被膜下血腫を発症した。発症時期は術後2~10時間で、治療側の疼痛、嘔気が主症状であった。いずれも保存的治療にて数日で軽快したが、血管塞栓術を必要とする場合もあり、少なくとも術翌日までは全身状態の注意深い観察が重要である。腎被膜下血腫の危険因子としては高血圧、糖尿病、冠動脈疾患、肥満などが指摘されているが、自験例では高血圧を認めるのみであった。ESWL は外来治療の頻度も高く腎被膜下血腫に対するインフォームドコンセントも非常に重要であると考えられた。

### はじめに

ESWL は上部尿路結石に第一選択となりえる安全な治療法である。しかし、腎結石や上部尿管への手術では、腎被膜下血腫を起こすことがある。ほとんどの場合は保存的に改善するとされるが、血管塞栓術などを必要とすることもあり、重要な合併症である<sup>1-3)</sup>。今回われわれは、ESWL 後に発症した腎被膜下血腫を2例経験したので若干の文献的考察を加えてここに報告する。

### 症 例

#### 症例 1

性；男性  
年齢；57歳  
既往症；なし  
現病歴；平成21年10月21日に左側腹部痛出現し近医受診。左尿管結石の診断にて当科紹介となった。受診時は間歇的左側腹部痛があり、経静脈的腎盂造影 (IVP) にて左腎盂尿管移行部に10 mm の結石を認め (図1), 入院 ESWL の予定とした。入院時血液所見；Alb 4.34 g/dl, AST 20 IU/l, ALT 27 IU/l, BUN 21.2 mg/dl, Cr 0.8 mg/dl,